

Die Eiche

ディ アイヘ
http://www.jdg-chiba.com

Japanisch-Deutsche Gesellschaft
der Präfektur Chiba
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1
清和会第2ワールドナッシングホーム内
電話 047-461-9111 Fax 047-461-7010

2018年ドイツ軍人慰霊祭 -第一次世界大戦終結から100年-



慰霊祭参列者記念撮影（撮影：理事 田中 正延）

第24回ドイツ軍人慰霊祭が当協会の主催により、ドイツ「国民追悼の日」に合わせて11月18日、午前11時から船橋市営習志野霊園にて営われました。

当日は天候にも恵まれ、第一次大戦終結から100年目の記念すべき慰霊祭となりました。

来賓としてドイツ大使館からは、ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン駐日ドイツ連邦共和国特命全権大使夫妻、武官マティアス・ライボルト陸軍大佐夫妻、ヴェルナー・ミュンツ総務課長夫妻に参列いただき、さらに、陸上自衛隊第一空挺団、千葉県、船橋市、習志野市からの来賓も迎え、会員39名を含めて100名以上の参列者となりました。

杉田事務局長の司会にて参列者黙祷の後、山岡健先生の指揮による県立千葉女子高校オーケストラ部38名の演奏と習志野第九合唱団員15名によるドイツ国歌を30名のドイツ兵が眠る慰霊碑前で斉唱されました。

金谷会長は、来賓及び参列者にお礼を述べるとともに、100年前の収容所の話に触れて「当時の所長は、西郷隆盛の子息、西郷寅太郎であり、ドイツ留学を経験、ハーグ陸戦条約を順守して捕虜を人道的に扱いました。自由な雰囲気の中で捕虜の人たちも地元住民とも交流し、ドイツの文化を残しました。ほとんどの方は帰国されたが、30名の方がスペイン風邪で亡くなり残念です。今回100年を迎えるに際し、改めて平和の尊さを深く感じます」と挨拶（独語：土屋理事）。

フォン・ヴェアテルンドイツ大使は、日本語にて慰霊祭の開催に対する当協会及び関係先への謝辞を述べ、「習志野霊園に記念碑



があることに心を動かされる。慰霊祭は独日の友情の表れである。今年は、世界中で第一次世界大戦の終結100年記念行事が行われていますが、これは、悲慘な戦争を二度と繰り返してはいけないという警告の意味です。同時に、すべての世代に共通の価値となる、自由、平和を守り続ける義務があり、民主主義、開かれた社会を若い世代とともに目指す必要があります」と強調されました。

4度目の参列となるライボルト陸軍大佐、その他の来賓からの挨拶に続き、堀江理事が捕虜収容所で亡くなられた兵士30名の名前一人一人を読み上げ、千葉女子高オーケストラ部と男性合唱団も加わり、慰霊祭のムードは高まりました。最後に献花が行われ、ドイツ大使夫妻に続き、参列者全員で慰霊碑の前に白菊をささげ冥福を祈りました。慰霊祭終了後に、ドイツ大使がオーケストラ部のタクトを借りてドイツ国歌を指揮する一幕があり、会場は大いに盛り上がりました。

その後、陸上自衛隊第一空挺団の建物内で行われた直会では、当協会の活動パネルを来賓に説明。会長、大使、陸軍大佐のスピーチにより友好ムードが漂う中、全員で飲み物と昼食を共にしました。席上、当協会のボルトシップ研究会の成果として、収容所の兵士の孫にあたる2名のドイツ人の手紙の原文を本間理事が紹介。そのドイツからの宗宮名誉会長宛の手紙には、「祖父たちは人道的待遇に感謝していた」との趣旨のメッセージが書かれており、大使夫妻、武官夫妻をはじめとする列席者が静かに耳を傾けました。最後に橋口昭八名誉会員より、「今回の慰霊祭は、大使にも参列いただき、和やかで多くの方が参加されてこれまでで最高であった。」との挨拶でお開きとなり、次年度につながる節目の慰霊祭となりました。（理事・編集委員 志賀 久徳）

■ドイツ大使館関係以外のご来賓名：中道尉・陸上自衛隊第一空挺団広報室長、今泉光幸・千葉県総合企画部長、小野文弘・千葉県国際課国際交流友好室長、高谷慶・千葉県国際課交流友好室主事、山崎健二・船橋市副市長、斉藤勝雄・習志野市生涯学習部長



収容所時代にハンス・ミリエスが作曲した曲を演奏



ドイツ国歌を楽しそうに指揮するヴェアテルン大使
（撮影：理事 田中 正延）



空挺団施設にて挨拶されるヴェアテルン大使
（通訳：堀江理事・写真左端）

Dr. Imke Lührs女史からの手紙

-習志野における慰霊祭に寄せて-

私の名前はDr.イムケ・リュースです。グリウス・リュースの孫で、彼は1914年から1919年まで日本の浅草と習志野の収容所に収容されていました。

家族全員、とても感謝しております。祖父が第一次世界大戦時、この上ない幸運に恵まれていたと私達は心得ています。彼の生存はこの災難の中、大いに危険にさらされていました。

祖父グリウス・リュースは1892年、11人兄妹の8番目の子供としてハンブルク近郊の村で生まれました。彼の家族の大抵の男子の様に、彼も船員になりました。

1913年彼は20歳で中国、青島でドイツ帝国海軍の帝国軍艦グナイゼナウの水兵となりました。第一次世界大戦の勃発まで、軍艦は太平洋域内で多くの港に寄港しました。

1914年7月5日、祖父は頭部に重傷を受けて、九死に一生を得ました。彼は船上で緊急手術を受けて、カロリン諸島のポナペの野戦病院に移送されました。

1914年8月4日に第一次世界大戦が勃発。3日後、帝国軍艦グナイゼナウはポナペを発ち、太平洋を横断しました。1914年12月8日、帝国軍艦グナイゼナウはフォークランド諸島での海戦で英国艦船により撃沈されました。

ポナペ（ドイツ帝国植民地）が戦闘行為を行わずに大日本帝国軍に降伏した後、祖父は1914年10月21日に船で日本に移送されました。

9か月の間祖父は東京、浅草の寺院境内の収容所において、その後習志野に建てられた仮兵舎に移送されました。彼はここで600人以上の他の兵士達と1919年の終わりまで生活していました。祖父は軍幹部の台所で勤務していました。収容所における仕事、炊事、薬品の調達を通じて、彼は良い点だけを言い伝えています。私達は、収容所で兵士達は出来る限りベストを尽くすことを要求されていたことを知っています。そういったことについて祖父は決して不平を言いませんでしたが、恐らくそれは困難な時であったでしょう。彼は自分の若い人生を総じて5年以上も収容所で過ごしました。彼は収容所での人間愛あふれる待遇にはとても感謝していました。重傷を負った事故での生存、帝国軍艦グナイゼナウの沈没から免れた幸福の後の3回目の幸福は、習志野で救われた人生でした。

収容所の窮屈な環境にも関わらず、この年月の間習志野ではたった30人の収容者がなくなっただけでした。亡くなられた方々のほとんどはスペイン風邪によるものです。彼らの死は今日も記憶されなければいけません。1920年の春、祖父は7年ぶりに再びドイツに戻ってきました。1923年の初めに彼は祖母アグネス・リュースと結婚し、同年3人の子供の内最初の子供が生まれました。祖父グリウス・リュースは1975年、82歳で故郷で亡くなりました。

（和訳：理事・編集委員 本橋 緑）



Die Eiche 読者アンケート速報

-分析結果と今後に向けて-

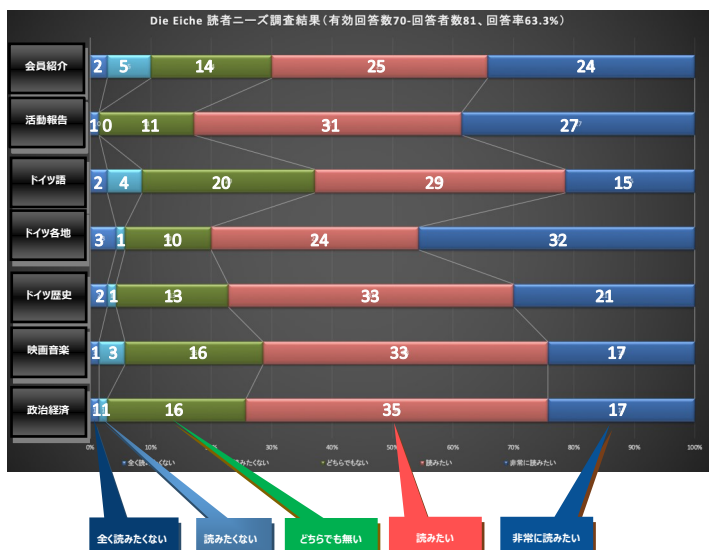
10月に実施した読者アンケートの状況を報告致します。短期間の調査ではありましたが、貴重なご意見をいただきました。ご協力ありがとうございました。

今回、個人会員128名に対してはがきによる調査を行い、回答81名（回答率：63.3%）、内、有効回答数は、70でした。下のグラフは、有効回答数をベースにしています。

【内容について】

会報誌である以上、協会の活動を報告することは、基本と捉えていますが、それ以外の分野で特定の内容についてのニーズがあるか確認しました。全体を通して言えることは、「どちらでもない」を含め、「読みたくない」「全く読みたくない」という中立からニーズが低い分野の比率が少ないということがわかりました。概ね、現在の誌面構成とニーズの乖離は、少ないのではと捉えています。

活動内容、会員紹介はもとより、ドイツに関する幅広い情報ニーズは、存在していると理解しました。自由コメントでは、「あまり難しい内容よりもドイツのお菓子とか身近な話題に興味有り」というご意見や「ドイツのスポーツ」、「ドイツ技術史」、「他の日独協会状況紹介」、「ドイツ現状の生きた情報」、「運営委員会の議事内容」というご意見もありました。「毎回大変楽しみにしている」というコメントもいただきました。編集委員にて引き続き、精査、検討、企画致します。また、文字が小さくなってしまふ点についても極力、改善をしたいと思います。



【発行回数、配布方法について】

年4回の発行で良いとされた方は、12名でした。69名の皆様は、現状の発行回数で良いとされている点を確認しました。また、配布方法について61名の方は、現状の郵送を希望されている点、同時に22名の方が電子配信含む他の方法を希望されていました（双方可の方有）。郵送以外の配布希望者、その他、協会の活動についてご意見について引き続き、運営委員会にて検討させていただきます。2（運営委員・編集長：勝見 浩明）

ハイデルベルグ大学キャンパスレポート

-青壮年部 竹内 優さんレポート-

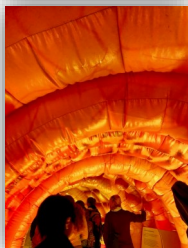
-10/1、11/1 千葉県日独協会Facebookへの投稿記事より抜粋-

千葉県日独協会の皆さま、こんにちは。9月からドイツのハイデルベルグ大学に交換留学をしている竹内です。こちらでは青壮年部の活動の一環として、簡単ではありますが月に一度、このFacebookページ上でドイツでの生活の様子をお届けしたいと思います。



9月2日にドイツに入国してから、1か月、大学が提供する留学向けのドイツ語準備コースに参加していました。私のクラスは、自分以外にイギリス人4人、フランス人4人、チェコ人2人、チリ人、ポーランド人、韓国人がそれぞれ一人ずつという国際的なクラスでした。10月から始まる新学期に備えて少しでもドイツ語のブラッシュアップができるこの環境は非常にありがたいです。

私の住んでいるハイデルベルグでは、9月29日にNacht der Forschung (研究の夕べ) というイベントがありました。ハイデルベルグおよび隣町のマンハイムにある研究機関および大学の研究所が、一般向けに講演を行ったり、子ども向けにレクチャーをしたり、普段立ち入ることのできない研究所の見学ツアーを行うというものでした。16~23時までイベントが行われ、私が聴きに行ったDKFZ(ドイツがん研究センター)の講演には老若男女問わず多くの人たちが参加し、専門外でも気軽に講演を聴きに行くことができるのは素晴らしいことだと思いました。ハイデルベルグはドイツの中でも暖かい地域だと言われているらしいですが、それでも気温は10度を下回る日が多いのでかなり寒く感じます。



腸の様子を解りやすく体験

10月中旬から新学期が始まりました。ハイデルベルグ大学翻訳・通訳研究所の会議通訳学科(修士課程)では、どの学生も8言語(ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語、日本語)のうちからA言語(いわゆる母国語)、B言語(第一外国語、A→BとB→Aの両方向に訳出)、C言語(第二外国語)という3つの言語を選ぶ必要があります。実際に通訳を行う授業だけでも各言語毎に逐次通訳・同時通訳と計6つの授業があり、毎日課題や予習・復習に追われ忙しい日々を送っています。10月上旬にドルトムントに行ってきました。ブンデスリーガ1部のボルシア・ドルトムントの試合を観戦しました。モナコとの試合でした。ドルトムントが勝利したので地元のファンの方々も大喜びでした。8万人以上収容できる巨大なサッカー専用のスタジアムで、全面黄色で埋め尽くされます。スタジアム全体の雰囲気にとっても興奮しました。ドイツのサッカーに興味がある方ぜひおすすめしたいのが、ドルトムント中央駅の目の前にあるDeutsches Fußballmuseum(ドイツサッカー博物館)です。2015年にオープンしたばかりの非常に綺麗でモダンな博物館で、ドイツサッカーの歴史やブンデスリーガ各チームの情報を得られるのはもちろん、知識が全くなくても見て回るだけで楽しめる内容となっているので、ドルトムントを訪れた際はぜひ立ち寄ってみて下さい。



ドイツ語の響きと景色に魅了



ドイツと私 -室田 真由見

私とドイツの出会いは、小学校6年の時でした。好きな歌手の写真集の舞台が、ドイツだったのです。私は何より、美しいドイツの景色に目が釘付けになりました。その美しい景色が忘れられず、大きくなったら絶対に行きたいと強く願うようになり、それにはドイツ語だ!と考えました。早速NHKのドイツ語講座のテキストを買いましたが、当時は、ただ言葉の響きや挨拶程度の簡単な言い回しを楽しんでいただけだったように思います。



高校生になり、ドイツ語を勉強することもすっかり忘れていましたが、志望大学を決めるとき、英語教師だった担任に相談したところ、「語学が好きなら英語以外の他の言語を大学でやったらどうだ?」と言われました。そのときすぐに思い浮かんだのが小学校の頃に写真で見たドイツの景色、そしてドイツ語の響きでした。迷わず大学は、ドイツ語を勉強できるところにしようと、ドイツ語学科、ドイツ文学科を幾つか受験しました。第一希望だった大学のドイツ語学科に入学できたときの感動は今でも忘れられません。

しかし、大学の授業は、文法や音声学が多く、なかなか会話の機会がなかったため、ドイツ語は上達しませんでした。そんな私が、話せるようになるにはどうしたらいいかと考え、思いついたのが青山のGoethe-Institutに通い、春休みには、バイエルンのプリーに短期留学することでした。これが私の記念すべき初めての海外経験であり、当時の思い出は、今でも私の宝物となっています。まず、フランクフルトからミュンヘンまで電車で行き、そこからまた1時間ほどでプリーに到着。2月のプリーは雪に覆われ、学校から寮への道で数時間迷子になったりもしました。週末には夜行列車で遠くの街にも出かけてました。金曜の夜出発し、日曜の夜にはプリーに戻るというハードなスケジュールでしたが、夜行列車も、初めて降り立つ街も全て新鮮でした。一番記憶に残っているのは、ベルリンです。当時は、まだ東西を分断していた壁が多く残されており、ポツダム広場も広大な空き地のようなのでした。何年後に訪れ、あまりの街の変貌ぶりに驚きました。



チェックポイントチャーリーの前で



最近は仕事や子育てに忙しく、ドイツ語を学ぶ時間もなかなか取れませんが、ドイツ語を聞くとなんだか郷愁の念にかられるような、不思議な気分になります。よく妹に「お姉ちゃんは前世はドイツ人だったのかもしれないよ」と言われ、もしかしたら本当にそうなのかもしれないと思ったりします。今後も毎日の生活の中で機会を見つけて、ドイツに触れ合っていきたいと願っています。いつか息子を連れてドイツに行くのが今の私の夢です。

書籍/Buch

1888年から2013年までのベルリンの様々な路線図が年代順に掲載されています。独語で説明がありますが、車両や風景が写る写真も多数あり、当時の情景が想像できます。19世紀後半には遠距離を走る蒸気機関車、中心地を走る馬車鉄道や路面機関車、20世紀初頭には電気運転に切り替わり、やがて地下鉄と高架鉄道ができます。政治的背景により変化する駅名、東西に分断され路線図に国境が入り、幽霊駅が存在する等、鉄道路線図の視点からベルリン史にふれてみませんか。Transpress Verlag社刊- ¥1,981- アマゾン (理事・編集委員:本橋 緑)



活動報告

■ Düsseldorf 奨学生との懇親交流会

10月12日(金) 18時半、JR新検見川駅前の「はなぞの座」で、当協会金谷会長以下15名が、ドイツの若者6名と引率者2名の計8名のドイツ人との立食パーティを持ちました。デュッセルドルフと千葉県との友好関係から、昼間は千葉県内で太巻き体験や、佐原での祭り参加を楽しみ、県庁の国際課富沢課長他4名も参加していただき、28名での夕食です。デュッセルドルフ市と奨学金財団が毎年、日本に関心を持つ若者を募集し、約1か月間日本に派遣し、各自の専門分野で日本企業や団体での研修体験(約10日間)や観光地巡りをさせており、今回の若者たち(女性2名と男性4名)の専門分野は、水素電池、情報学、クラフトデザイン等々多岐に亘っています。食事をしながら、当協会の成り立ちとか活動を紹介するとともに、種々意見交換を楽しみ懇親を深めることができました。お土産として京都から取り寄せた「豆腐子」を差し上げ喜ばれました。(専務理事・事務局長 杉田 房之)



■ 習志野ドイツフェア

今年の習志野ドイツフェア2018は、好天のなか10月13日(土)～14日(日)の2日間、JR津田沼駅のマリシア前の津田沼公園にて行われました。

初日のオープニングセレモニーでは、当協会の金谷会長が特



設ステージにて挨拶をされ、そのなかで当協会の発足の歴史(ドイツ軍人慰霊祭の開催)の説明と合わせ、マリシア2階で活動状況の写真展示を行っている旨等を紹介しました。

写真の展示内容は、活動部門ごとに作成された黒パネルに、それぞれの写真を掲載したものでした。



当ブースに来られた方には、会員が当協会や展示写真の説明を丁寧に説明していました。(常任理事/編集委員 吉川 三朗)

■ 第3回「ドイツパンと料理を楽しむ会」開催

青壮年部主催による第3回「ドイツパンと料理を楽しむ会」が10月14日(日)の15時より、船橋市東部公民館にて開催されました。

今回も以前東京日独協会の研修生、フェリックスさんに習った、①パウエルンブリュッシュトック(農家の朝食)②シュトラマーマックス(ドイツパンの店タンネで購入したライ麦60%の薄切りパンの上に生ハム、チーズ、トマト、ピクルス、目玉焼きを載せたオープンサンド)を、復習を兼ねて再度、作りました。③カリーヴルスト(ソーセージを温めて、ケチャップにソーセージと水を少々加えてまぶし、カレー粉をかけたもの)は、5月の訪独時にベルリンで食べましたが、より美味しいカリーヴルストを試作することとでチョリソーを少し追加、①②は土屋理事と本間理事が、③は私が作り方を実演。その後、会員及びその家族8人で料理作りを楽しみました。予想通り①は、調理に手間取ったが、17時半過ぎには全て完成して早速試食会。①は農家の人達が早朝の畑仕事の後に食べる食事だけにボリューム満点、②と③を合わせると、満腹状態に。③の味はベルリンのインビスよりも良かったと思います。後片付けでは、食器、備品の数のチェックに時間が掛かったものの、参加者には満足して自作の料理を持ち帰っていただきました。(会長 金谷 誠一郎)



今後の予定

1月19日 新春講演会 講師 前跡見学園学長 山田徹雄氏
演題: ドイツ・オーストリア国境地帯における受難劇上演と観光 -ガルミッシュパルテンキルヒェン郡とクーフシュタイン郡-
時間 15:30-17:15 / 場所 船橋市中央公民館 5F
1月19日 懇親会
時間 17:30-19:30/場所 船橋スクエア21 2F「今日和」

会員情報

新人会員 石元 成子 船橋市前原東
法人会員 医療法人 同和会 千葉病院、社会福祉法人 清和会、
(株)京葉ビル管理。(株)和幸電気工事、
メルセデス・ベンツ日本(株)習志野事業所

編集後記

11月より編集委員として理事 本橋 緑さんが参画されることになりました。読者アンケートの中に最新のドイツ情報に対するニーズがありました。現在、会員限定の協会Facebookを開設しています。ドイツの出来事を共有しています。関心ある方は、勝見(siegmund2017@outlook.com)までご連絡ください。また、ドイツ軍人慰霊祭でハンス・リエスの曲が演奏されていました。俘虜収容所という環境の中、非常に美しいメロディなのが印象的でした。勝見 浩明